

■サンタアニタトロフィー (SⅢ) アラカルト (過去全 42 回の分析)

※第 1 回 (昭和 55 年) から第 16 回 (平成 7 年) までは「関東盃競走」の名称で実施

※第 23 回 (平成 14 年) から第 24 回 (平成 15 年) までは 1,590m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は 1,800m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は国際招待競走・別定競走として実施

※第 1 回 (昭和 55 年) から第 40 回 (令和元年) までは 7 月下旬～8 月上旬に実施

※記録は令和 4 年 10 月 19 日時点

■ 1 番人気馬と 2 番人気馬の 3 着内率はほぼ同じ

単勝 1 番人気馬は 13 勝、2 着 7 回、3 着 1 回で、3 着内率が 50.0%、単勝 2 番人気馬は 6 勝、2 着 9 回、3 着 7 回で、3 着内率が 52.4%、単勝 3 番人気馬は 6 勝、2 着 3 回、3 着 6 回で、3 着内率が 35.7%となっている。単勝 1 番人気馬の 3 着内率がそれほど高くない点に注意したい。

■ 1～3 番人気馬のワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回だけ

過去 42 回のうち 25 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を取めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 9 回あるが、単勝 3 番人気以内の馬が 1～3 着を占めた例は現在のところ第 41 回 (令和 2 年) のみである。

■ 優勝馬の大半は 4～5 歳馬

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 14 勝、5 歳が 13 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 4 勝、8 歳が 1 勝、9 歳が 1 勝となっている。なお、3 歳時に優勝を果たした馬は、現在のところ第 3 回 (昭和 57 年) のレイクルイーズのみである。

■“トップハンデ”の馬は 10 勝

過去 42 回のうち 10 回は、もっとも負担重量の重い馬が優勝を果たしている。一方、もっとも負担重量の軽い馬が優勝を果たした例は 2 回だけである。なお、優勝馬の負担重量は第 6 回（昭和 60 年）のテツノカチドキに課されていた 59.5kg が最高、第 2 回（昭和 56 年）のダイロクホームメイと第 3 回（昭和 57 年）のレイクルイーズに課されていた 50kg が最低だ。

■牝馬は 2 勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第 3 回（昭和 57 年）のレイクルイーズ、第 9 回（昭和 63 年）のイーグルシャトーと、これまでに 2 頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第 25 回（平成 16 年）でナイキゲルマンが、第 28 回（平成 19 年）でシーチャリオットが 2 着となったものの、まだ優勝例はない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7 勝の的場文男騎手が単独トップ。石崎隆之騎手、張田京騎手が 4 勝で 2 位タイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4 勝の大山末治調教師、月岡健二調教師がトップタイ。荒山勝徳調教師が 3 勝で単独 3 位となっている。

■外寄りの枠番がやや優勢

枠番別勝利数を見ると、6 枠（9 勝）が単独トップ。7 枠と 8 枠（各 6 勝）が 2 位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、6 番（5 勝）が単独トップ。1 番、8 番、12 番（各 4 勝）が 2 位タイである。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。